

### 問3（感染症対策期間中の取組）

#### ③ 「その他、取り組みがありましたら記入して下さい。」

##### マスクを作って配布した。チャリティを実施した。

- ・ 手縫いで布マスク作りを行い、自分たちでコロナ対策をする意識を高めた。
- ・ マスクを作り、来館者に配布した。／家庭に配布した。／地域の保育園・幼稚園、小学校、福祉団体等に寄付した。／大人用、子ども用、大小ペアの3種類をメッセージを添えて無料配布した。／車や花柄などいろいろな生地で作られており、好きな柄を選べて好評だった。
- ・ 地域に向けて「マスクの作り方」の手紙を自由にとれるように設置した。
- ・ チャリティーバザーを実施し、募金した。

##### 児童館の環境整備

（日頃できなかつた環境整備に取り組んだ）

- ・ 断捨離。普段、手が回らなかつたところの大掃除や建物まわりの手入れができて、環境整備に時間を使えた。
- ・ 普段実施できなかつた、館内の大掃除を実施しました。（窓ふき・イスなどの水洗い等）
- ・ 普段、行き届かない場所の清掃、館庭の草刈等
- ・ 館内を利用者が使いやすいようにレイアウト替えをすることができた。
- ・ 環境整備：廊下と遊戯室の修繕をおこなった。利用者がいないことが幸いで、安全面を気にせず修繕でき早く仕上がった。
- ・ 玩具の消毒等の必要な消耗品（アルコール、マスク、次亜塩素酸）の確保が大変だった。
- ・ カーテンの洗濯
- ・ 児童館の庭や倉庫の整備、遊具のペンキ塗り等をおこなった。
- ・ 館内の環境整備及び清掃。図書整理、備品・遊具の修繕。

（子どもたちとともに取り組んだ）

- ・ 子どもたちは進んで図書の整理や、壁面づくり、草抜きなどの手伝いをしてくれた。児童館の仕事にかかわることで、愛着が持てたのではないかと思う。
- ・ 子ども達にも使った遊具（なわとび、フラフープなど）の消毒をしてもらった。

（環境面での感染症対策を実施した）

- ・ 図書室の机にテープで、パーソナルスペースを分かりやすく示した。
- ・ 館のいたるところに、3密にならないことや、感染防止対策について掲示した。子どもたちが見て分かるようにイラストなどで描いた。

##### 自宅でできる遊び等の提供

（遊びの情報提供）

- ・ 児童館だよりで、家でやれる遊びや料理を紹介した。
- ・ 在宅児童への遊びのヒントを特集したおたより(号外)を作成配布。遊びの材料を配布。など
- ・ 学校登校日に合わせ、遊びのレシピを掲載したじどうかんだより（特別号）を発行した。
- ・ エコクラブ（緑化）の映像配信を実施。野菜の生育のクイズや会館時にむけての期待を持つ

てもらおうようにした。

- ・ 野外掲示板での情報提供や遊びの提供  
(遊具の貸出、遊びキットの配布、他)
- ・ 自然とふれあえる「遊びキット」を開発し、巡回しながら地域の子どもたちへ届けた。子どもたちや保護者の声を聞くことができた。地域の子ども教室と連携できた。
- ・ こいのぼり製作キット(150セット)とジャンピングカエル遊び製作キット(150セット)を、地域のショッピングセンター2店舗で各2回、無料配付した。特にこいのぼり製作キットが好評で、感謝の言葉や子どもの写真等を送って頂いた。
- ・ 自宅で作れる工作キット(お楽しみbox、パック)を電話にて受付し、送付した。
- ・ 工作、あやとり、ぬりえ等の遊びキットを子どもたちに配布した。あやとりに夢中になった子が多かった。
- ・ 職員が作成した自宅あそびの送付(遊びドリル・簡単工作のキット) — 工作などは制作ものを保護者の方に写真をメールで送っていただき、子どもたちの様子など観察できるようにした。また、遊びドリルは開館後センターに持参すると景品と交換できるようにし、意欲的、継続的にセンターとのかかわりを途切れさせない取り組みを行った。分散登校がはじまり、登館した児童から取り組んだものの提出が早速あり、楽しく取り組んでもらえたことが伺えた。
- ・ 「鬼滅の刃」ぬり絵の配布・・・今、最も子ども達の感心ごとの漫画のぬり絵を配布。児童館の前を通りかかる児童に声掛けしぬり絵を渡す。口コミで配布を練達。子ども達の健康状態も聞き取りしながら近況も把握する。正面玄関に三角掲示板にぬり絵の大型見本を張り、“もう少し頑張ろう!!”のメッセージを設置。それに釣られて門扉越しに事務所へ子ども達が大声で『先生～元気ですか?～』と声掛けしてくれた。
- ・ 日ごとに各家庭から、保護者が何をしたら良いか?子どもが暇でどうしたらよいか?などの愚痴が聞こえるようになり、いろいろな企業から支援して頂いたお菓子やマスクなどを散歩しながら取りに来てもらった。また、木の鯉のぼりキットを作り、児童クラブをお休みしている児童にも順番に取に来てもらい、家で親子で作って飾ってもらった。
- ・ 地域のお店にて、職員が作成した工作キットなどの遊びを置かせてもらっている。

## 遊び・活動の工夫

- ・ 学童クラブの遊びの時間を一人であそべるゲーム版や映画上映(距離を離して)を行いドッチボールなど呼気がかかるような運動系の遊びは止めた。
- ・ 1テーブルを挟んでのゲームを取り入れて少しでも離れて遊べるようにした。日1回15分、みんなで集まり、歌や手遊び、ゲームなどを実施した。
- ・ 遊戯室の半分のスペースに、「サーキット」を作った。
- ・ 16ミリ映画やDVDを大型スクリーンに上映し、自由に観覧してもらった。
- ・ 密にならないように制限しつつ、ストラックアウトなどの遊具を設置した。
- ・ ボードゲームをたくさん購入し、子ども同士はもちろん、職員と子どもたちがコミュニケーション取りながら遊ぶ時間が増えた。
- ・ なるべく遊技場での遊びとか、公園での遊びの時間を多めにとる。一人一人の作業で、全体が出来る作品作りを考える。

## 利用者への連絡・声掛け、情報発信、メッセージ

- ・ すべての行事が中止になったので、毎月発行する小学生へのおたよりにクイズや妖怪ぬりえ・豆知識を載せ、家での時間を少しでも楽しんでもらうため、配布した。
- ・ 児童館のお便りに近隣の個人文庫を開いている方から本の紹介をいただき情報を発信しました、また、今後も簡単な工作の作り方の情報を発信したいと思います。
- ・ SNS を利用し、お便りやメッセージを投稿した。保護者には喜んでもらえた様子。
- ・ ツイッターで家での遊びの紹介や保護者向けにエールを送るツイートを積極的に行った。
- ・ これまで講座を受講してくれた子どもを中心に、ポストカードにメッセージを添えて郵送した。
- ・ 学校から帰ってくる子どもたちに声かけを行ったり、「会いに来た」と児童館の前まで来てくれていた子どもたちと最近の様子など聞いたりいちごの水やりを一緒にしたりしていました。
- ・ 子供たちと育ててきた畑の作物が実りの時を迎えていて育てていたメンバーには知らせるとともに可能な子には児童館前で渡したり、近隣の方に配ったりしている。児童館の職員は中にいるので困ったときには電話してねと館のフェンスに貼り出したり、家でもできる児童館遊びをお知らせの記事にしたり工夫をしている。
- ・ こどもの日を前にセンター敷地に鯉のぼりを掲揚、窓には「がんばろう」の文字を貼り、メッセージを送るとともに SNS で発信した。児童センターにゆかりのある方をはじめ、市民の方からの反応があった。休館していても子どもたちを見守っていることを伝えていきたい。
- ・ 宿泊の予約をもらっていたご家族やリピーターのご家族へ、手紙や遊びキットを送付した。（メールや手紙で子どもたちや保護者の声を聞くことができた。）
- ・ ハガキ送付（とても喜ばれました。）
- ・ 児童クラブ利用自粛を促す中、1年生には職員の顔写真入りで、2年生以上にはアマビエの塗り絵を添付し往復はがきで郵送。メッセージやイラストを書いて返信してもらい”繋がっているよ”という気持ちを送った。
- ・ 館外に手作りこいのぼりと一緒に応援メッセージを子ども達に向けて掲示し、うれしかった、元気が出たとの反響があった。
- ・ 子ども達へのメッセージの掲示、外から見える位置に入学、入園、進級おめでとうのメッセージ、こどもの日にちなんでのメッセージ、大きいこいのぼりの掲揚等を行い、少しでも子ども達に寄り添い、元気が出て、一緒に頑張ればと実施した。散歩の途中で気付いて近くによって見たり読んだりしてくれて、時々窓越しに声をかけてくれてお互いを励まし合っている。
- ・ 地域に向けての応援メッセージの掲示（オリジナルこいのぼりにメッセージ等）。反応はよくわからないが、一緒に撮影をしている親子もちらほら…。
- ・ 地元の FM 放送で市内の各児童館からのメッセージを発信してもらった。

## 子育て支援や相談業務

- ・ 全児童館で児童虐待防止の観点から、育児不安や育児ストレスを軽減するための「子育て支援室予約利用」を実施した。2時間という限られた時間だったが、子どもと関わるだけの時間がとても長く感じ、保護者からは大人と話せることが嬉しかったと言われた。遊びを見つける事が難しいし、母親自分自身のサポートとしても児童館に来れたことは良かったと言われた。

児童館の必要性を再確認した。

- ・ 乳幼児親子の育児相談と称し、来館していただき 30 分程度児童館で過ごしていただいた。小中高生も相談と称し、30 分程度の来館を認めていただいた。
- ・ 相談のみ来館（1 時間程度）を受け入れているが、毎日のように来館している利用者もあり、家庭以外の居場所や職員との関わりが求められており、施設の重要性を実感した。
- ・ ママの子育て支援に関する相談や子ども本人からの相談窓口の設置。具体的な相談はなかったが、児童センターからの発信に対して、保護者から激励の Mail が届いた。

## 生活支援・学習支援

- ・ 要支援家庭へマスクや食料、子どもが遊べるものなどを提供した。
- ・ 児童館で開催していた子ども食堂が館で開催できず、子ども弁当へと切り替えて配布しました。受取の際に顔がお互いの顔が見えたり、地域のボランティアの方々とも会えたり、密を避けながら、お弁当でつながりを維持することができたのは良かったと思いました。
- ・ お弁当を無料で支給した。／弁当やパン、マスク、飲み物などを無料配布した。
- ・ 子どもだけで家にいて食事にも満足に取れていない様子が見られたので、社会福祉協議会や児童家庭課と連携して、一人親家庭を中心に食材を届けた。（親からはお礼の電話をもらった。）
- ・ 食材を無料配布したが、保護者から「買い物もいくのが不安だから、助かる。」や「仕事も休みになり、さらに学校が休みになって食費がかさんでいたから助かる。」などの声を頂いた。
- ・ 地域飲食店から申し出があり、数日間、多子世帯、一人親世帯にお弁当の提供をおこなった。
- ・ 課題が多いので、学習時間を増やした。
- ・ 学童クラブに在籍していない子どもの緊急利用を行なった。両親が就労の為一人になってしまふ子ども達の救済（居場所）するのは児童館としての役割だと強く感じた。
- ・ 養護学校が休校であった上に、保護者に感染の疑いが生じたため、放課後等デイサービスを利用できなかった児童の一時預かりを実施した。

## 活動の見直し

- ・ 年間行事の見直しや実施予定をしていた行事の変更
- ・ これまでの活動を振り返り、新しい活動計画を立てた。
- ・ 利用者にアンケートを取った。

## 職員研修

- ・ 「児童館ガイドライン」を自館と照らし合わせ、職員間で話し合う時間を持った。
- ・ 毎日、様々なことをみんなで共有し、連携して決めた。そのことによって職員間連帯が図られたことや、また他児童館での取り組みなどをそれぞれが情報収集し、互いに共有することで、新たな「ひきだし」が増える事にもつながった。

## 他施設・機関、地域等との連携、他施設のサポート等

- ・ 子育てサポーターや地域の方、近隣の児童館以外の施設（おでかけひろば）等との情報交換は「地域」をより意識する機会となった
- ・ 地域の方、学校、近隣の保育園、交通指導員さんとの情報交換：できる限り児童館の外側に目

を向け地域の方たちと話をしたり、保育園での取り組みについて情報をもらったりした。学校の先生方とも話をよくするようになり、こんな機会ではあるが地域の方たちとより関わることができるようになった。

- ・ 近隣小学校の校長先生たちと話をし、学校と連携を取りながら感染予防対策を考えた。
- ・ 市内の子ども食堂などに連絡をとり、顔が繋がった。緊急時は児童館と利用者の2項になりがちだが、普段目の前のことに追われがちな分、こうした機会に様々な資源と繋がり、将来的には緊急時に地域として動けるようになれたらと考えている。
- ・ 非公式ではあるが市内の全児童館の館長会をオンラインで実施し、情報交換を行った。
- ・ 同一法人内の障害児施設に出向き、絵本の読み聞かせや音楽を使ったレクリエーションを行った。子どもたちに笑顔が見られ出向いた職員も楽しむことができた時間だった。外出や学校にも行けない中ためていたストレスの解消にもなったと思う。
- ・ 休館の為、職員は同じ管轄の公立保育所へ保育士不足の為、保育の手伝いへ行っている。保育所へ行く事で保育士の園児への接し方や園児の成長する姿を見る事が勉強になり、今後の児童館での仕事に大いに役に立つと言っている。
- ・ 児童館に面する公園の一部の環境整備を時間を決めておこなった。保護者とあいさつを交わしたり子どもたちの表情を見たりすることができた。
- ・ 児童館の庭で自由に遊んでもらえるよう、遊具（すべり台、ブランコ）や砂場の開放を行った。普段から児童館に遊びに来てくれている方や保育園帰りの方の利用がよく見られ、「行くところがなく、家にいても煮詰まってしまうのでここで遊べて良かった」といった声を聞くことができた。また小中学生も友だち同士で遊びに来ることがあり、その際に会話による働きかけを行った。

## その他

- ・ 児童クラブの利用自粛をお願いし、ご協力頂けたら日割りで返金した。子育て支援センターや放課後子ども教室の職員にも手伝ってもらいながら、2交代制勤務を3週間ほど行った。
- ・ 休暇取得や親族での見守り等ができない子どもだけを受け入れることにした。学校再開とともに利用者が増加し、3密を避けることができず対応に苦慮している。
- ・ 併設している放課後児童クラブ事業の実施（緊急事態宣言以後、放課後児童クラブの出席数が減少したが、それまでの出席数は多く、ソーシャルディスタンスをとることが難しい現状があった）。
- ・ 閉館にあたり、職員は児童クラブの応援に行った。児童館と違った約束、決まりなどがあり、子ども達も普段遊びに来る時と違った一面があった。遊びについても工夫されていると感じた。自由来館の児童館とは違い、何日もかけて取り組める塗り絵や遊びがあり、熱中する子どもを見て、職員が児童館でも、もっと違った工作や遊びの提供ができるのではないかと気づくプラス面があった。
- ・ 児童館だけでは、3密になってしまうため、4月からは、学校で行っている自主登校と一緒に、学校の教室を利用し、学校の先生の協力をえながら、生活をしていった。また、放課後子ども教室の部屋も利用させてもらった。